

# ボランティアセンター 東日本震災ニュース

日本医療福祉生協連 近畿ブロック有志

No.18 2011年5月26日  
発行担当 尼崎医療生協・堤

## 花釜地区の訪問行動 から見えてきたもの

### 依頼件数

泥かき	5件
床板はがし	2件
庭掃除	2件
引越し手伝い	0件

実態を把握していくために引き続き山下駅の北側を訪問してまわっています。訪問からわかってきたことは、居住禁止区域の指定が解除されて、再び花釜地区で生活できるようになることを願う



人が本当に多いということです。自分の家で生活を続けたいという強い思いから震災後そのまま自宅で生活されている方、避難所で生活されていても今後自宅に戻れることを信じて毎日通いながら掃除を続ける方、業者に家の修繕を依頼している方、いろいろな方が元の生活に戻れるよう努力されています。しかし、瓦礫の撤去や床板はがし、泥かきは本当にたいへんな作業で、どうしても人手が必要です。素人では手を出せない作業もあります。そのため、そこには支援の手が必要となります。

25日訪問した方で、被害が大きすぎて何から手をつけていいのかわからないという方がいました。その方は

それでも自分でやろうと思ひ、ボランティアを頼んでいなかったそうです。また、庭や家の中は自分たちで片付けたが、素人の手では床板はがしをすることが難しく、工務店に依頼して見積もりを出してもらったところ、高額だったため途方にくれていたという人もいました。今後は、何かしらの理由で未だボランティアに依頼していないお宅を訪問行動によって掘り起こしていこうと考えています。

訪問行動の際、少量の物資をお渡ししてまわっているのですが、やはり食料はとても喜ばれます。居住禁止区域では食料の支援がどうしても少なくなっていて、お米が欲しいという方も何名かいらっしゃいました。また、移動手段を失った方も多く、尼崎から届いた中古自転車の需要は非常に大きいです。自転車に関しては数には限りがあるので依頼された方全員にお配りすることはできませんが、必要などころに必要なものが行き渡るように今後もニーズを調べていく予定です。

